

なかふらのの未来へ

“つながる”学校づくり

No. 1



第6期なかふらのまちづくり総合計画（令和3年度～令和12年度）の計画期間に建築後40年を迎える中富良野小学校・中富良野中学校両校の学校施設の老朽化対策について関連する事柄も含めて連載していきます。

～第1話「明治三十四年十一月十七日現市街地ナル某所ノ藁小屋ヲ以テ校舎トシ」～（町史より）

中富良野小学校の現施設は、現中富良野中学校敷地にあったものを昭和51年6月7日に現在地に移転することで行工をはじめ、昭和52～54年に校舎・体育館が完成しています。校舎は、鉄筋コンクリート造2階建て3千597㎡、体育館は、鉄筋コンクリート造914㎡です。

完成後41～43年が経過し、その間、耐震対策工



事は実施したものの構造体に関わる修繕は、ほぼ発生することなく使われてきました。

中富良野中学校の現施設は、昭和55、56年に校舎が完成（39～40年経過）、昭和62年に体育館が完成（33年経過）しています。校舎は、鉄筋コンクリート造3階建て4千807㎡、体育館は、鉄筋コンクリート造1千246㎡です。完成後、構造体に関わる修繕は、ほぼ発生することなく使われてきました。

ただ両校施設ともに、約40年の長い間、子どもたちの学び舎として愛されてきましたが、近年は、外壁や内壁のひび割れ、窓サッシのゆがみ、給排水設備の不良、強風や強雨などの悪天候のときには雨漏りなどが発生しています。幾多の地震や風雪に耐え、子どもたちを守ってきましたがそろそろその役目を終える時期が近づいてきました・・・【つづく】